



町民文芸

只見短歌会 令和四年四月詠草

我が仮の佛壇に友は娘の好み居し餅供へくるるも

馬場 八智

戦争なんかしないであかよくジャンケンで遊ばばいいのにと幼な孫言ふ

新国由紀子

灰撒きて雪解けうながす庭内に我の大事な水仙の有り

目黒 富子

春彼岸思ひ巡りし雪解けの花壇の隅に福寿草見ゆ

関谷登美子

欠かさずに日記付けある夫のそば我も書かむとペンを取り出す

渡部ヨリ子

なが病める我にと孫嫁花大きピンクの石楠花窓際に置く

新国 洋子

(出詠順)



只見俳句会 四月定例会

日高俊平太 指導

のんびりと雪解川見る村湯かな
薫風や笑う親子の肩車

真理子

潤いて色生まれたる春の水
春の夜や山を見ている月明かり

紺 青

春寒の目覚めに願う平和かな
春雨やさざえ堂めぐりて御朱印を

妙 子

友は逝く峡の雪解の音を聴き
言霊の森にひびくよ春の雪

恒 夫

啓蟄や雪屏に耳近づけて
春光や川巾満たすダムの川

礼

添寝してふん張る足や春の闇
シルバーカー曾孫と歩調春の道

一 穂

戦争と一緒に来たる春一番
雪折れの樹木の下に墓一つ

修 一

秩父路に汽笛響いて春来たる
コロナ禍に桜見る人みな優し

信

友逝きてやたら会えたり入り彼岸
学校の隅々見えて春休み

都

「疲れたね」が挨拶となり雪明ける
雪壁にライトアップを君見えますか

一 恵

